



上田城の歴史と六つのひみつ

歴史のひみつ①



上田城はどうやって完成した？

今から四〇〇年以上前の戦国時代、天下を指して武士が争いを続けていた時代に、**真田昌幸**は上田城をきずきました。当時の上田は強い武将（戦国大名）にかこまれ、いっだれにせめてこられるかわからないため、昌幸は気をぬくことができませんでした。

そのようなことから、昌幸は徳川家康の力を借りて、越後（今の新潟県）の上杉景勝と戦うための最前線のお城として、北に太郎山、南に千曲川が流れる自然の地形を生かしたこの地にお城を建てたのです。

その後昌幸は、家康と対立して上杉氏と手を結んだり、豊臣秀吉などの武将の協力をえたりしてかけ引きをしながら、お城と上田の地を守っていきました。



第二次上田合戦をえがいた絵

歴史のひみつ②

第一・第二次上田合戦 徳川の大軍に勝利！

● 第一次上田合戦

徳川家康の力を借りて上田城をきずいた**真田昌幸**ですが、その後、昌幸のりょう地であった沼田（今の群馬県沼田市）のことで、徳川軍と対立することに……。七千人の徳川軍に対して二千人足らずの家来をひきいた昌幸でしたが、かたい守りの上田城で見事な戦りやくによって、徳川軍をしりぞけました。

● 第二次上田合戦

第一次上田合戦の十五年後、石田三成らの西軍と徳川家康らの東軍が、世の中を二分して戦っていました（関ヶ原合戦）。真田家では昌幸とその次男の信繁（幸村）が西軍に、長男の信之が東軍に分かれて、争うことになってしまいました。

西軍についた昌幸と信繁は上田城に立てこもり、関ヶ原に急ぐ家康の三男秀忠をぼう害し、徳川軍三万八千人に対して真田軍二千五百人で、数日間上田に足止めしました。秀忠は関ヶ原合戦に間に合わず、家康をおこらせてしまったといわれています。

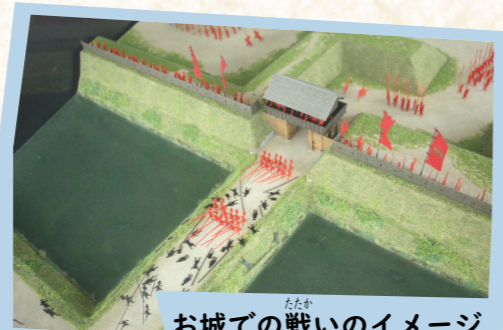
● 関ヶ原合戦の後

天下分け目の関ヶ原合戦は徳川方の東軍が勝利となり、負けた西軍の昌幸と信繁は九度山（和歌山県）にとじこめられ、**上田城は徳川軍によってこわされてしまいました。**

江戸時代、父昌幸のあとをついだ信之は、お城がなくなったため、今の上田高校のところに屋敷をつくり、上田の町を整え、旅人や大名が休める宿場をつくり、上田の町をゆたかにしていきました。



たてもの建物の上からこうげきしたり、ほり（溝）の下のてきをこうげきしたりする工夫をしていたんだ。

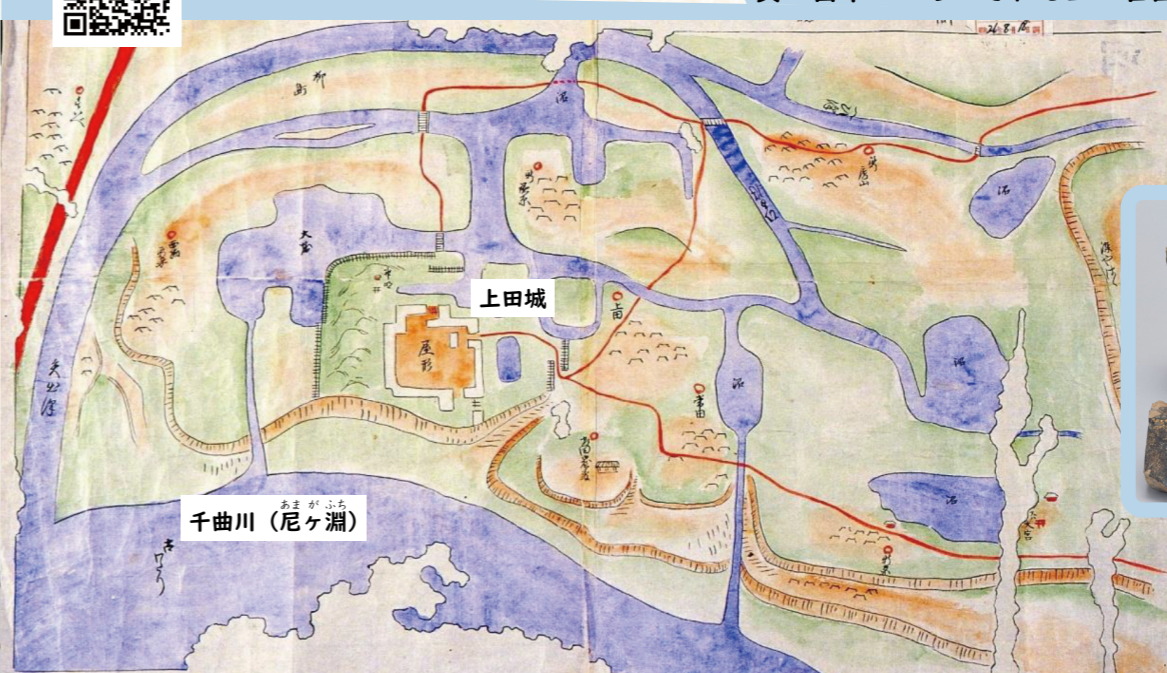


お城での戦いのイメージ

上田城跡公園を調べてみたら、金ばくをはったかわらが、ほりあとから発見された！わたしの時代のもと考えられているぞ。そのかわらを使ったお城がどんなすがただったのか、ぜひ、そうぞうしてみてください！



真田昌幸のころとされる上田古図



千曲川（尼ヶ淵）



金ばくがわら

どうして昌幸・信繁と信之は、てきと味方に分かれたのかな？

右下の絵は、家康の命令で戦場に向かっていった3人が、てきの立場である石田方から重要な手紙がとどいたため、犬伏（栃木県）というところで相談している様子です。手紙の内ようは、石田方の味方になって徳川方と戦えというものでした。

本心では家康に対して不満をもっていた昌幸と、石田方の武将のむすめと結こんした信繁は、石田方につくことになり、徳川方の武将のむすめと結こんした信之はこのまま家康方に残ることになりました。

父子・兄弟がてきと味方に分かれることになってしまいましたが、どちらが負けても一族のだれかが生き残り、真田の家を残すため、つらい決断をしたのではないのでしょうか。



犬伏の別れ

1880 年ごろ

(明治 13 年ごろ)



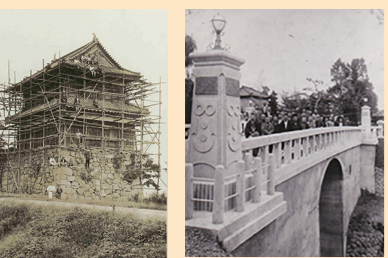
松平神社

1920 年ごろ

(大正 9 年ごろ)



上田公会どう



改修中の西櫓 (左)
二の丸橋 (右)

1950 年ごろ

(昭和 25 年ごろ)



南北櫓ふく元しゅん工式



ほりでスケート

1994 年

(平成 6 年)



東虎口櫓門



上田城の最後の城主となった松平忠礼。外国から伝わった洋服や写真など、新しい文化を次々と取り入れていました。



松平忠礼

明治時代から、上田はようさん業で栄えてきたんだよ。上田城には、どんな建物があつたんだろう。



北の二つの櫓がふく元されました。その後一九九四年(平成六年)に東虎口櫓門が完成し、今の上田城の新しいシンボルとなっています。

歴史のひみつを6つもさぐってきましたが、上田城は何度もピンチを乗り越えて、今があるんですね。みなさんが特にきょう味をもったことは何ですか？この本の二次元バーコードやインターネット、図書館などを活用して、もっと調べてみましょう。



歴史のひみつ⑤ 明治時代 上田城生き残りのピンチ!?

今から約一五〇年前、江戸時代が終わり明治時代になると、世の中のしくみや決まりが大きく変わり、上田城も、土地や建物、木々までが売りわたされてしまい、西櫓一つがポツンと残されるだけになってしまいました。

それを見た住民や松平家の元家来から、松平神社(今の真田神社)をつくり、本丸を公園としてほぞんしてはどうかという声が上がりました。当時本丸の大部分を持っていた二代目丸山平八郎はこの声に共感し、神社や公園用に土地を寄付しました。これが上田城跡公園のスタートになります。さらに平八郎は、残された西櫓を最後の城主である松平忠礼にお返ししました。



歴史のひみつ⑥ 上田のシンボル! 南北櫓と東虎口櫓門のふく元

公園として整ひされていく上田城。そこには公会どう(今のホール)が建てられたり、大きな二の丸ほりのあとには鉄道も走ったり、ただ一つ残った西櫓は徴古館(博物館)になったりして、市民がつどう場が変わっていききました。

こうした中、元々上田城にあった櫓を元の位置にもどそうという運動が市民の間で起こり、「上田城跡保存会」が結成され、一九四九年(昭和二十四年)に南北の二つの櫓がふく元されました。その後一九九四年(平成六年)に東虎口櫓門が完成し、今の上田城の新しいシンボルとなっています。



歴史のひみつ③ 江戸時代によみがえった上田城



デジタルコンテンツで江戸時代の上田城を見てみよう



一六二二年(元和八年)、真田信之に代わって仙石忠政が上田城の城主になりました。忠政は江戸幕府のきよかを経て、こわされていた上田城をつくり直すふっこう工事を始めました。真田昌幸がつくったお城を活用したような資料も見つかっています。

上田城のふっこうを進めた忠政はさらなる計画を立てていたようですが、工事が始まって二年あまりで病気で亡くなり、工事は中だんしてしまいました。忠政は、どんなお城をゆめ見ていたのでしょうか。

上田城はその後、城主が松平氏に代わりましたが、江戸時代が終わるまで守り伝えられ、そして今、わたしたちが目になっている上田城跡公園のきそとなっています。



仙石忠政



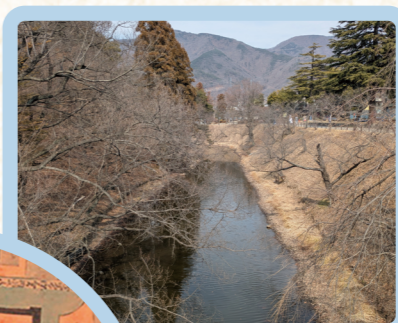
歴史のひみつ④ 七つもあつた櫓とお城の工夫

忠政がふっこうした上田城には、松本城のような大きな天守はありませんでした。代わりに櫓とよばれる二階建ての建物があまり広くない本丸の中に七つもあるとてもめずらしいお城でした。

また、深い溝の「ほり」や、土を山のように積んだ「土るい」、石を積んでかべのようにした「石がき」をつくり、てきがどこからせめてきてもしん入できないように工夫をしていました。



櫓
土るい



ほり
石がき

